

令和7年度 加古川市立志方中学校 学校自己評価

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

	質問項目	評価	学校としての対応策		質問項目	評価	学校としての対応策
学習指導	1. 主体的・対話的で深い学びの視点での授業力向上の取組	B	・相互授業参観を行い教科を超えた意見交換の場を設け、授業力向上につなげる。 ・ICTを効果的に活用し協働学習を取り入れることで、生徒が主体的に学ぶ授業の実現を図る。	生徒指導	11. 内面的理解を基盤に、心にひびく指導と教育相談の充実	A	・生徒への日常の声かけや短い会話の中から違和感を見つけ、教職員間での共有を密に行う。
	2. 個性や能力に応じたきめ細かな指導	A	・生徒の授業理解を確認したうえで、少人数授業の充実やICTの活用により、個別最適な学びの実現を図る。		12. 学校生活適応推進事業(アセス)の活用	B	・アセスの意義や結果の見方、結果を踏まえた生徒へのフィードバックの仕方などの研修を取り入れる。
	3. 兵庫型学習システムや複数指導などの有効性	A	・少人数授業や複数指導を通してきめ細かな指導の充実を図り、基礎学力を定着させる。		13. 通学指導などの安全教育の推進	A	・機会をとらえて交通ルールを確認し、自転車の乗り方や通学マナーのより一層の向上につなげる。
	4. 基本的な学習態度、学ぶ姿勢の育成	B	・全教員で授業規律を確認し、徹底を図る。 ・生徒の興味を引き出す授業をめざし、研修を重ね、授業改善に努める。		14. 挨拶など地域ぐるみで取り組む健全な生徒の育成	A	・今後も地域・家庭と連携した教育活動を継続していく。
道徳教育・人権教育	5. 「道徳の時間」の指導法の研修・工夫	A	・相互授業参観を行ったり学年を超えて授業を行ったりするなど工夫し、教員研修を進める。	生徒会	15. 生徒会活動の活性化	A	・新たな取組を支援し自主性を引き出しながら、生徒会活動の充実を図る。
	6. 差別解消の課題を明確にした計画的、系統的な指導の実践	A	・1年を通して、つながりのある授業の構成や内容を再度検討する。	研究と修養	16. 信頼される教職員をめざし、研修に努めている	A	・研修の時間を確保したり、教職員のニーズにあった研修内容に決めたりするなど、充実した研修になるように努める。
	7. いじめや不合理を許さない心の育成	A	・計画的に職員研修を実施し、教職員の人権意識と指導力のさらなる向上を図る。		17. 勤務時間の適正化・業務改善を推進し、一人一人の生徒に向き合う環境作り	B	・業務をチームで分担するなど、一人に集中しないような体制の見直しを行う。 ・DXを推進し、環境整備を進める。
体育・食育・防災教育	8. 体の育成への援助・工夫	A	・健康意識を高めるために、養護教諭と連携し保健だより等を活用しながら積極的に情報を発信する。	特 教 別 育 支 援	18. 合理的配慮に基づいた指導法の工夫	A	・支援計画などを活用し、適切なサポートを行うとともに、特別支援教育に対する理解を深めるため、研修の充実を図る。
	9. 食育に関する指導の充実	B	・「食育だより」の活用や機会をとらえて食育に関する話題を取り上げることで、食事の重要性を理解させたり食への感謝の気持ちを養ったりする。	キ ャ リ ア	19. キャリア教育の推進	A	・キャリアノートやキャリアパスポートを活用し、引き続きキャリア教育の推進体制を充実させていく。
	10. 防災教育への指導	A	・避難訓練や防災学習の内容について、より現実在即した活動となるように改善を重ねる。	地 域 わ り の	20. 学校運営協議会を中心とした家庭・地域との連携	A	・学校運営協議会と連携し、地域の人材や教材を活用できる体制づくりをより一層進める。